⌒・・*⌒*

▼△　事故を防いで海、川、山を安全に楽しもう　△▼

⌒・・*⌒*

海や川、山など、アウトドアのレジャーを楽しむことが増える季節です。自然に触れるレジャーは、楽しみがある半面、自然ならではの危険もあります。今回は、海水浴や山登りなどでの注意点を紹介します。

■水難の約半数は死亡事故に！■■■

～水辺のトラブルは重大事故になりやすい

令和３年に全国で発生した水難事故は1,395件、水難に遭った人数は1,625人に上っています。そのうち744人が亡くなったり行方不明となったりしています。

いったん事故が起きると、命にかかわる重大事故になる可能性が非常に高いのが、水難の特徴だといえます。

水難の死亡・行方不明はどのような場所で発生しているのか、死者・行方不明者の割合を場所別にみると、1位が「海」で全体の49.2％と約５割を占めています。以下、「河川」（34.0％）、「用水路」（9.0％）、「湖沼池」（7.1％）となっています。

また、水難の死亡・行方不明が、どのような場合に起きているかをみると、28.8％が「魚とり・釣り中」、6.2％が「通行中」、5.5％が「水遊び中」、そして5.0％が「作業中」となっています。

子供（中学生以下）の死者・行方不明者の割合を場所別にみると、1位が「河川」で全体の58.1％、次いで「湖沼池」（19.4％）、「海」（16.1％）、「用水路」（6.5％）となっています。

子供の場合は、河川での水遊びによる事故が多く発生しています。

こうした水の事故を防ぐためには、海や川などそれぞれの自然環境の特徴を理解し、水難につながりやすい危険な場所、危険な行為などを知っておくことが重要です。

●こうして防ごう！　海の事故

（1）遊泳をするときは、管理された海水浴場を利用する

（2）健康状態が優れないときやお酒を飲んだときは泳がない

（3）事前に天気予報を確認する

（4）子供から目を離さない

（5）自己救命策の確保の推進～事故から命を守るために～

・ライフジャケットの常時着用

・防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保

・118番・NET118の活用

・家族や友人・関係者への目的地等の連絡

●こうして防ごう！　川の事故

前述の海での注意点に加えて、次のような点にも気を付けてください。

（1）出掛ける前に天気や川の情報をチェック

（2）危険を示す掲示板、水流が速い・深みがあるところは避ける

（3）河原や中州、川幅の狭いところに注意

（4）天気や川の変化に注意する

次のような変化は川の水が急に増えるサインです。すぐに避難しましょう。

・上流の空に黒い雲が見えたとき

・雷が聞こえたとき

・雨が降り始めたとき

・落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき

（5）ライフジャケットを着用する。

■依然多い、中高年の山岳遭難■■■
～遭難者の約 5 割が 60 歳以上
令和 3 年には 2,635 件の山岳遭難が発生し、計 3,075 人が遭難しています。そのうち死者・行方不明者は 283 人でした。過去 10 年間の山岳遭難発生件数をみると、増加傾向で推移していたのが、令和元年から 2 年連続で減少したものの、令和 3 年は増加に転じ、過去最多となった平成 30 年に次ぐ件数となりました。
3,000m級の山岳では、例年と比較して遭難者数が減少しましたが、首都圏近郊の標高の高くない山等では増加しました。
山に入った目的別に遭難者の割合をみると、1 位が「登山（ハイキング、岩登り、スキー登山などを含む)」で全体の 77.9%、2 位が「山菜・きのこ採り」(11.3%）となっています。
遭難の内容別にみると、1 位が「道迷い」で全体の 41.5%、2 位が「転倒」(16.6%)、3 位が「滑落」(16.1%）となっています。
年齢層別にみると、60 歳以上が全遭難者の 48.3%を占めています。さらに死者・行方不明者においては、60 歳以上が 71.7%にはね上がります。60 歳未満であっても、遭難者の約 4 割が 20 代～50 代(50 代 16.7%、40 代 13.4%、20 代 8.0%）となっており、油断は禁物です。

●こうして防ごう！　山岳遭難
山岳遭難の多くは、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てたり、天候に対して適切な判断ができなかったりするなど、知識・経験・体力の不足などが原因で発生しています。比較的気象条件に恵まれることの多い夏の山でも、山には様々な危険があります。また、標高の高い山だけでなく、低い山でも山岳遭難は発生しています。
遭難を防ぎ、安全に山を楽しむために、次のことに注意しましょう。
（1）知識・体力・経験に見合った山選びを
（2）登山計画の作成、提出
登山者の氏名や連絡先、日程やコースなどを登山計画書にまとめて、家庭、クラブ（山岳会)、職場、登山口などの登山届ポスト、山を管轄する警察署などに提出しておきましょう。ネットによる登山届（一部の県警察ホームページ、日本山岳ガイド協会オンライン登山計画システム「コンパス」など）の方法もあります。
登山計画書を提出しておけば、遭難時に捜索・救助が迅速に行われる可能性が高まります。
（3）冷静な状況判断と、慎重な行動を
（4）通信手段の確保
万一、遭難したときに通報して助けを求められるよう、携帯電話やスマートフォンなどを携行しましょう。山では通話圏外になる場所も多くありますが、GPS 付き携帯電話などからの通報で救出された例も少なくありません。
山ではバッテリーの消耗が速くなることがあります。予備のバッテリーもお忘れなく。
（出展：警察庁「令和 3 年における水難の概況」
「令和 3 年における山岳遭難の概況」）

以上

・・・・・令和４年８月-２メルマガ便り・・・・・　　エビス・ＩＳ

▼△中小企業の個人情報保護　これだけは知っておきたい 10 のポイント△▼

個人情報とは、名前・住所・電話番号・メールアドレスなど、特定の個人を識別できる情報のことです。企業が個人情報を扱い場合、気を付けなければならないことがあります。菓子メーカーが自社ホームページで新しく通販サイトを立ち上げるという事例（社長との会話）で、知っておきたい 10 のチェックポイントをお伝えします。

　―　まず、何のために個人情報を利用するか目的を決めていますか？

社長「住所、氏名、電話番号は商品を届けるためです。メールアドレスは新商品の案内をするために利用します」

■チェックポイント１『利用目的は具体的に決める』

～目的外では使用しないようにします。また当然のことですが、不適正な利用は禁止されています。

～利用目的は、入力フォームなど、個人情報を取得するページに記載するなどして、お客様本人に通知したり、プライバシーポリシーとして、あらかじめ公表しておきます。

■チェックポイント２『利用目的は本人に通知または公表する』

　―　取扱いルールは決めていますか？

社長「はい。個人情報取扱規則を設けています。取り扱う従業員は２名で、責任者は総務部長です」

■チェックポイント３『取扱いのルールを定め責任者を決める』

～重要なポイントとなります。

■チェックポイント４『従業員の教育を行う』

～他の従業員にも個人情報保護法ハンドブック（※「個人情報保護委員　広報資料」で検索）などを使って定期的に教育するようにしてください。

　―　個人情報を扱うパソコンは、どこにありますか？

社長「総務部長の机の上です。ワイヤーで机とつないでいます。オフィスは外部の人が簡単に出入りできないようになっています」

■チェックポイント５『物理的に安全な措置を行う』

社長「また、セキュリティ対策ソフトを使っており、データにはパスワードをかけています」

■チェックポイント６『パソコン等にセキュリティ対策を施す』

～個人情報漏えいを防止するための対策も非常に重要です。これらの安全管理措置については公表する必要があります。また、万が一、情報漏えい等の事態が発生した場合には、個人情報保護委員会への報告と、本人への通知が必要となる場合があります。

社長「質問があります。お客様別に御菓子を梱包し、発送する作業を他の会社に発注しており、お客様情報を渡すことになるのですが、これは大丈夫ですか？」

　―　契約を結ぶなどして個人情報の取り扱いを他の事業者に委託する場合であれば、本人の同意を得ずに渡すことができます。ただし、委託先に個人情報の適切な管理を求めてください。

■チェックポイント７『事業者に取扱いを委託する際は適切な管理を求める』

社長「また、将来的に近くの洋菓子メーカーとお互いのお客様情報を交換して、それぞれの新商品紹介をメールで送付しようと思っているのですが、それは大丈夫ですか？」

　―　お客様情報を第三者に提供するのであれば、原則として、本人の同意を得ることが必要です。

■チェックポイント８『個人情報を提供する場合は本人の同意を得る』

～本人の同意を得て個人情報を第三者に提供する場合は、「いつ・誰の・どんな情報を・誰に」提供したかを、原則３年間記録しておいてください。これは提供を受けたときも同じです。

■チェックポイント９『提供したり提供を受けたりしたときは年月日等を記録し保存する』

また、お客様から個人情報の開示や訂正、利用停止等の申し出があったときは、速やかに対応することも忘れないでください。

■チェックポイント 10『本人からの開示や訂正、利用停止等の申し出には速やかに応じる』

個人情報の取扱いを誤ると、企業の信用を揺るがす事態になりかねません。利用者や消費者が安心できるように、ルールを守ったうえで、有効に活用していきましょう。

以上